

Scoop

2000年7月

セルシオ

トヨタ

正真正銘！！

トヨタマークのついたセルシオ初公開！！！！

デトロイトショーで3代目レクサスLS430が公開されてから半年。ついにスクープ班は国内版セルシオの完全無欠な写真を手に入れることに成功した。

掲載したクルマのフロントグリルに光り輝くトヨタマークと、右ハンドル仕様のインパネが何よりの証拠だ。


[↑ zoom](#)

これが8月31日に登場する新型セルシオだ。高級感あふれるグリップタイプのドアハンドルが目新しい。いっぽう、プレスドアに代わってサッシュ付きドアが採用されることにより、グリーンハウスが現行モデルに比べて大きく見える。


[↑ zoom](#)

トランクリッド後端は現行モデル同様、つまみ上げたようなダックテール処理となっている。ルーフ上の取って付けたような短いアンテナが年輩ユーザーに受けるかどうか、やや心配だが…。なお、ホイールベースは現行比プラス75mmの2925mmに。

新型セルシオの社内キャッチフレーズは「WOW! Again」、すなわち“驚きをふたたび”と定められた。

最大のライバルであるベンツSクラスおよびBMW7シリーズがFMCで飛躍的に進歩したため、セルシオの大幅進化も不可欠となったワケだ。この後を読み進んで新型セルシオの熟成ぶりを知れば、キミも驚きが隠せなくなるはず。



[↑ zoom](#)



[↑ zoom](#)

インパネではナビ画面が上方に移され、視認性が高まる点に注目したい。また、随所に採用される本木目パネルが高級感の演出にひと役買っているが、スッキリ感は歴代モデルの中ではいちばん薄いかも。上下2段式グローブボックスは継承。

もっとも大きな注目ポイントは4・3リットルに拡大されるエンジンだ。3 U Z - F E 型を名乗る新型ユニットは現行4リットルと同じ280psを誇りつつ、最大トルクを41・0kg-mから43・9kg-mに増強。

また、アクセルペダルの踏み込み量や車速に応じてトルクのかさ上げを可能としたパーシャルトルク制御と相まって、いちだんと力強い走行性能が体感できるにちがいない。



[↑ zoom](#)



[↑ zoom](#)

リアシートの頭上スペースは現行モデルよりも40mm拡大される。同時に前後ヒップポイント間も50mm長い1034mmに延長される。

C仕様に新設定されるセミアラインン本革表皮は最高級家具に使われるものと同じで、その独特の風合いが魅力的だ。カラーリングは写真のブラックのみだが、全グレードにオプション設定される通常の本革シートは4色から選択できる。

あわせて風切り音対策が念入りに行われ、静粛性にも磨きがかかる。トヨタ社内の測定データによると、先に挙げたライバル2車をしのぐ静粛性能が確保されているという。

テストコースでの試験を担当したドライバーも、さぞかし快適なキャビンでの爽快ドライブを楽しんだことだろう。うらやましいぜ！

全9色のモノトーンカラー



[↑ zoom](#)



[↑ zoom](#)



[↑ zoom](#)



[↑ zoom](#)



[↑ zoom](#)



[↑ zoom](#)



[↑ zoom](#)



[↑ zoom](#)



[↑ zoom](#)

5つの新色を含め、ボディカラーは9色から選択可能。イメージカラーはクリーンなシルバーメタリックだ。

▲ 戻る















〈6S6〉

ダークグリーンマイカ ★





〈8P8〉

ダークブルーマイカ ★



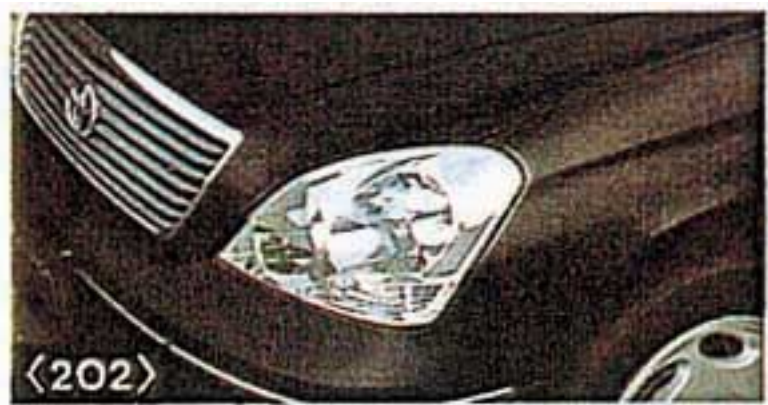
3P2

ボルドーマイカ



＜066＞

アイボリーパールクリスタルシャイン ★



〈202〉
ブラック



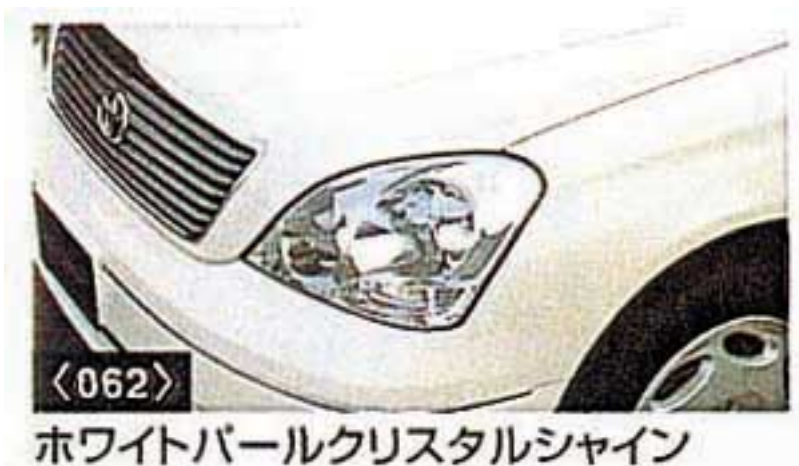
〈6S5〉

グリーンマイカメタリック ★



＜1C0＞

シルバーメタリック 〇



ホワイトパールクリスタルシャイン